

SNSが生んだ修業0日のすし屋 「強い」を演じるブランディング戦略



Interview

株式会社ユニポテンシャル 代表取締役

かきだ

かずひろ

蛎田 一博さん

1990年、広島県に生まれる。大学卒業後に上京し、証券会社へ入社。営業マンとしての勤務を経て、2015年、人材紹介会社「株式会社ユニポテンシャル」を創業。2022年7月、趣味の釣りが高じ、席数6席の「有楽町かきだ」をオープン、X（旧Twitter）で話題となり、開店直後から行列ができる人気店になる。2023年7月、新宿駅南口から徒歩3分の好立地にある小田急ホテルセンチュリーサザンタワーの19階に席数140を有する「有楽町かきだ」をオープンさせ、国内外から注目を集めている。

【取材・文】 中村 美音 中小企業診断士 【写真】 田中 和弘

Interview >>> Kazuhiro Kakida

— The prologue

蛎田一博氏は転職エージェントの社長でありながら、釣り好きが高じて独学で、すし屋の大将となった異色の経歴の持ち主である。2022年にオープンした席数6席の東京・「有楽町かきだ」は、X（旧Twitter）で話題となり、開店直後から行列ができる人気店に。「修業0日のすし屋」として評判が評判を呼び、テレビのバラエティ番組などさまざまなメディアに多数出演。店舗移転のためのクラウドファンディングでは、当初の目標金額100万円を大きく上回る5,300万円近くを調達した。SNSでの発信を中心としたブランディングとそのチャレンジ精神は他に類を見ない。徹底したイメージ戦略で海外進出という次なるステージを狙う氏に、頭一つ抜き出るためのマインドを伺った。



きっかけは、釣った魚で
社員にふるまった海鮮丼

—新型コロナウイルス感染症の影響で人材紹介業の業務がストップしていた時期は、釣りざんまいだったとお聞きしました。

そうです。週6くらい行っていました。朝の4

時に家を出て、夕方の6時くらいまで釣りをし、また翌日の朝出かけるような生活をしていました。その頃はコロナ禍で世の中が止まってしまっていて、会社に行ってもやる事がなかった。もう何も考えていないです。これでうちの会社が終わるなら、みんな終わるだろうと思っていました。

—そういう諦観があったのですね。

ただ結果論として、そこで釣りに行っていたことが僕の場合、次のキャリアへの仕込みになりました。毎日の釣果が社員のまかないになり、社員が飽きてまかないを食べなくなったから、海鮮丼の店を出そうと思った。そんなふうにして、次のキャリアにつながっていったというのはありますよね。

—出店当時は海鮮丼のお店だったのですね。最初にオープンしたのは東京・有楽町でした。

有楽町の駅前にある四角いビルですね。地下に飲食街があって、そのわずか5坪の空き店舗に居抜きで入りました。その店舗がもう取り壊すということで、1年限定で安く借りられたのです。